令和 6 年 度

八代市議会建設環境委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

1. 6月定例会付託案件	1
1. 所管事務調査	1 4

令和 6 年 6 月 1 2 日 (水曜日)

建設環境委員会会議録

令和6年6月12日 水曜日

午前10時00分開議

午前11時02分閉議（実時間54分）

○本日の会議に付した案件

1. 議案第47号・令和6年度八代市一般会計補正予算・第3号（関係分）
1. 議案第68号・令和6年度八代市一般会計補正予算・第4号（関係分）
1. 議案第60号・八代市下水道条例の一部改正について
1. 議案第59号・八代市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例の一部改正について
1. 所管事務調査
 - ・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査
 - ・生活環境に関する諸問題の調査

○本日の会議に出席した者

委員長 橋本幸一君
副委員長 友枝和也君
委員 田方芳信君
委員 橋本貴喜君
委員 堀徹男君
委員 山本幸廣君

※欠席委員 君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

建設部長 西 竜一君
建設部総括審議員兼次長 野間卓志君
土木課長 福浦亮二君
住宅課長補佐兼市営住宅係長 村上修一君
下水道総務課長 山本康博君

市民環境部

循環社会推進課長 古田和弘君

○記録担当書記

安永尚斗君

（午前10時00分 開会）

○委員長（橋本幸一君） 改めまして、皆さんおはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）それでは定刻となり、定足数に達しましたので、ただいまから建設環境委員会を開会いたします。

それでは、本日の委員会に付します案件は、さきに配付してあります付託表のとおりであります。

なお、令和2年7月豪雨に関連する予算、事件、条例案等につきましては特別委員会に付託となりますので、御承知お祈りいたします。

○議案第47号・令和6年度八代市一般会計補正予算・第3号（関係分）

○委員長（橋本幸一君） 最初に予算議案の審査に入ります。

まず、議案第47号・令和6年度八代市一般会計補正予算・第3号中、当委員会関係分を議題とし、説明を求めます。

それでは、歳出の第7款・土木費について、建設部から説明願います。

○建設部長（西 竜一君） 皆様、おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）建設部長の西でございます。

本委員会に付託されました議案のうち、議案第47号・令和6年度八代市一般会計補正予算・第3号の建設部所管分につきまして、野間総括審議員兼次長より説明いたさせますので、よろしく願いいたします。

○建設部総括審議員兼次長（野間卓志君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）建設部の野間でございます。よ

ろしくお願いいたします。

着座にて説明させていただきます。

○委員長（橋本幸一君） どうぞ。

○建設部総括審議員兼次長（野間卓志君） それでは、議案第47号・令和6年度八代市一般会計補正予算書・第3号をお願いいたします。

14ページをお開きいただき、下段の表を御覧ください。よろしいですか。

款7・土木費、項2・道路橋梁費、目4・橋梁維持費は、補正額9170万円を増額補正し、2億1433万円としております。

財源内訳につきましては、国庫支出金が5043万5000円、地方債が3710万円、一般財源が416万5000円で、補正額の内訳は節14・工事請負費でございます。

別冊の委員会資料、議案第47号・建設部所管分の3ページを御覧ください。

橋梁長寿命化修繕事業は、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、点検において早期に補修が必要とされた箇所から随時補修を行っております。

本年度は、黒字で示す箇所について、定期点検や補修委託、工事を実施することとしておりましたが、今回、防災・安全社会資本整備交付金の国の内示額が当初予定よりも増額されたため、緊急性を考慮し、赤字で示す橋梁16橋について、補修に要する経費を補正するものでございます。

続きまして、予算書の15ページをお開きいただき、上段の表を御確認ください。

款7・土木費、項6・住宅費、目1・住宅管理費は、補正額310万9000円を増額補正し、2億4965万3000円としております。

財源内訳につきましては、地方債が310万円、一般財源9000円でございます。

内容は、表の右、説明欄に記載しております公営住宅管理事業です。令和6年2月21日の落雷により、新町団地の給水設備制御盤が破損

し断水状態となりました。現在、緊急措置としてポンプ1基を連続稼働させ、給水している状況となっております。

水の安定供給のためには、制御盤等の交換を行い、ポンプ2基での交互運転に戻す必要がございますので、修繕に要する経費を補正するものでございます。

以上、議案第47号・令和6年度八代市一般会計補正予算・第3号のうち、本委員会に付託されました建設部所管についての説明を終わります。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

○委員長（橋本幸一君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

○委員（堀 徹男君） 橋梁の件で赤字で示した部分がまた新たに急いでやるという話でしょう。結構、今ぱっと見ただけだったんですけど数があるようなんですけど、年度内に全部、今の、何とかな、職員さんとか計画の中でクリアできそうなかなと思ったんですけど、大丈夫そうですか、事業完了まで。

○土木課長（福浦亮二君） 皆さんおはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）土木課の福浦でございます。よろしくお願い致します。

今、委員さんの御質問ありました補正で追加分の橋梁の補修部分の件ですけど、本庁、支所合わせて16橋追加になっておりますけど、一応今のところは今年度で完成する予定で行くところでございます。

以上です。

○委員（堀 徹男君） はい、分かりました。

○委員長（橋本幸一君） ほかに。

○委員（堀 徹男君） 公営住宅の予算の件なんですけど、市債で310万と一般財源の9000円って何なんですか。

○住宅課長補佐兼市営住宅係長（村上修一君）

おはようございます。住宅課の村上でございます。

9000円の件でございますが、起債のほうは10万円単位での起債の単位ということになりますので、1000円単位の9000円については一般財源からということになります。

(委員堀徹男君「なるほど」と呼ぶ)

○委員長(橋本幸一君) よろしいですか。

○委員(堀 徹男君) 分かりました。

○委員長(橋本幸一君) ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(橋本幸一君) 以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いします。

○委員(堀 徹男君) その公営住宅の給水の件なんですけど、水が使えないというのはですね、やっぱり住んでいる人にとっては一番不便なので、今1基でね、臨時的にやられてるということなんですけど、予算通ったら早急にですね、対処のほうをお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

○委員長(橋本幸一君) ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(橋本幸一君) なければ、これより採決いたします。

議案第47号・令和6年度八代市一般会計補正予算・第3号中、当委員会関係分については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者 挙手)

○委員長(橋本幸一君) 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

◎議案第68号・令和6年度八代市一般会計補正予算・第4号(関係分)

○委員長(橋本幸一君) 次に、議案第68号・令和6年度八代市一般会計補正予算・第4号中、当委員会関係分を議題とし、説明を求め

ます。

それでは、歳出の第10款・災害復旧費について、建設部から説明願います。

○建設部長(西 竜一君) それでは、引き続きよろしく願いいたします。

本委員会に付託されました議案のうち、議案第68号・令和6年度八代市一般会計補正予算・第4号につきまして、引き続き野間総括審議員兼次長より説明いたさせますので、よろしく願いいたします。

○建設部総括審議員兼次長(野間卓志君) 引き続きよろしく願いいたします。着座にて説明をさせていただきます。

それでは、議案第68号・令和6年度八代市一般会計補正予算書・第4号をお願いいたします。

8ページをお開きいただき、下段の歳出の表を御覧ください。

款10・災害復旧費、項2・公共土木施設災害復旧費、目1・道路橋梁施設災害復旧費は、補正額920万円を増額補正し、2億1932万円としております。

補正額の財源内訳につきましては、地方債が920万円で、補正額の内訳は節14・工事請負費を増額するものでございます。

別冊の委員会資料、議案第68号・建設部所管の3ページを御覧ください。

坂本町の市道市ノ俣線において、4月29日の降雨により、右側上段に示す写真のとおり、約15メートル区間の路肩が崩壊し、通行に支障を来している状態となっております。

また、左の平面図に記載しておりますけれども、被災箇所の上流には災害復旧を行っている現場もあり、早急に大型車を通行させる必要があることから、路肩崩壊を復旧する経費として、工事請負費920万円の増額補正をお願いするものでございます。

以上、議案第68号・令和6年度八代市一般

会計補正予算書・第4号のうち、本委員会に付託されました建設部所管についての説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（橋本幸一君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（橋本幸一君） 以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（橋本幸一君） なければ、これより採決いたします。

議案第68号・令和6年度八代市一般会計補正予算・第4号中、当委員会関係分については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（橋本幸一君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

執行部入れ替わりのため、小会いたします。

（午前10時10分 小会）

（午前10時11分 本会）

◎議案第60号・八代市下水道条例の一部改正について

○委員長（橋本幸一君） 本会に戻します。

次に、条例議案の審査に入ります。

まず、議案第60号・八代市下水道条例の一部改正についてを議題とし、説明を求めます。

○下水道総務課長（山本康博君） 下水道総務課の山本でございます。よろしく願いいたします。

着座にて、説明をさせていただきます。

○委員長（橋本幸一君） どうぞ。

○下水道総務課長（山本康博君） 議案第60号・八代市下水道条例の一部改正について説明

いたします。

議案書は67ページからになります。

本件は、次の2点の理由により八代市下水道条例の一部改正を行うものです。

まず、1点目が排水設備工事責任技術者に関する改正です。

国におけるデジタル原則に照らした規制の一括見直しプランに基づく、常駐・選任規制等の見直しに伴い、現在、指定工事店の営業所ごとに専属させることを義務づけている排水設備工事責任技術者について、営業所ごとに選任するものに見直すとともに、市は排水設備工事責任技術者の営業所の兼務状況等を確認した上で、県の区域内における営業所については兼任することを妨げないとする改正を行うもので、施行日は令和6年7月1日としています。

次に、2点目が排水基準に係る改正です。下水道法施行令の一部改正に伴い、公共下水道からの放流水に関する排水基準を改正するものです。

これまで、下水道法施行令において、公共下水道からの放流水に含まれる大腸菌群数に係る基準を定めてありましたが、今般、大腸菌群数より正確な指標である大腸菌数を測定することが可能になったことから、環境基本法や水質汚濁防止法といった関係法令に基づく大腸菌群数に係る水質基準が大腸菌数に係る基準に変更されることを踏まえ、放流水に含まれる大腸菌群数についても、大腸菌数に係る基準に改正されております。

ここで、大腸菌と大腸菌群の違いについて簡単に説明いたします。

大腸菌が1種類の菌種を指すのに対して、大腸菌群は大腸菌とよく似た状態の菌群を指したものになります。すなわち、大腸菌群の中に大腸菌が含まれるということで、大腸菌群イコール大腸菌ではありません。

今回の改正は、大腸菌群数よりの確にふん便

汚染を捉えることができる大腸菌数に見直しを行うというものでございます。

なお、この排水基準に係る改正の施行日につきましては、下水道法施行令の施行日に合わせ、令和7年4月1日としております。

説明については以上でございます。御審議のほど、よろしく願いいたします。

○委員長（橋本幸一君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（橋本幸一君） 以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（橋本幸一君） なければ、これより採決いたします。

議案第60号・八代市下水道条例の一部改正については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（橋本幸一君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

執行部入替のため、小会いたします。

（午前10時16分 小会）

（午前10時16分 本会）

◎議案第59号・八代市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例の一部改正について

○委員長（橋本幸一君） 本会に戻します。

次に、議案第59号・八代市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例の一部改正についてを議題とし、説明を求めます。

○循環社会推進課長（古田和弘君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）循環社会推進課の古田です。

着座にて、御説明させていただきます。

○委員長（橋本幸一君） はい、どうぞ。

○循環社会推進課長（古田和弘君） それでは、議案第59号・八代市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例の一部改正について御説明いたします。

議案書は65ページになりますが、事前にお配りしております資料①をお願いします。

まず、改正の趣旨でございますが、環境センターへの持込みごみの処理手数料につきましては、平成16年度から改定が行われておらず、ごみ処理経費との乖離が生じております。

また、一般廃棄物につきましては、発生した市町村内で処理することが原則でございますが、近隣自治体との手数料の価格差の拡大により、市外地域からの越境ごみの搬入が懸念されております。

そこで、廃棄物の再生利用及び減量化を推進するとともに、排出事業者責任の徹底と処理経費に対する受益者負担の適正化を図るため、八代市ごみ問題等対策検討会からの提言を踏まえまして、手数料等の改定を行うものでございます。

次に、改正の内容でございますが、別表第2におきまして、環境センターでの処理手数料を10キロ当たり100円から150円に、八代ソイルで行っております樹木剪定くずを50円から100円に、また別表第3では、スプリング入りマットレスを1個当たり1000円から2000円に改定しております。

なお、改定額につきましては、ごみ処理経費から割り出した額を基に、近隣自治体や民間事業者とのバランスを加味し算定を行っております。

続きまして、別表第3では、エアコン、テレビなど家電リサイクル法対象4品目の受入れ廃止に伴い、手数料に関する規定を削除しております。

受入れ廃止の理由につきましては、まず1つ目に、環境センターでは受入れ件数が年間30

件程度と少なく、郵便局窓口でのリサイクル券の購入のほか、重量に応じた手数料と品目ごとに500円から1500円の搬入手数料が必要なこと。

2つ目に、国の指定引取場所——本市では敷川内町にある久留米運送八代店でございますが、そちらに直接持ち込む場合は搬入手数料は無料でリサイクル券の購入のみで済むため、ホームページや電話での問合せがあった際も、自己負担が少ない指定引取場所への直接搬入を御案内していること。

3つ目に、家電リサイクル法対象品を買い換える際などは小売業者に引取り義務がございますことから、県内他自治体では受入れを行っていないこと。

以上のことから、手数料の改定に併せまして環境センターでの受入れを廃止するものでございます。

なお、施行期日はいずれも令和6年10月1日でございます。

次に、お配りしております資料②をお願いいたします。

こちらは、県内14市におきます可燃ごみの処理手数料一覧表でございます。

参考までに、他市の状況を申し上げますと、上段の本市を含む県南地域におきましては、10キロ当たりの処理手数料は100円でございますが、4月から県央地域の宇城市、宇土市では150円を200円に、天草地域では50円を150円に改定されており、阿蘇市を除くほかの市におきましても150円から200円となっております。

なお、今回の手数料等の改定につきましては、収集運搬許可業者への説明会を開催し、改定の目的や必要性について御理解をいただくとともに、環境センターの受付窓口や市報、ホームページなどで広く周知を図ってまいりたいと考えております。

以上で説明を終わります。御審議のほどよろしく申し上げます。

○委員長（橋本幸一君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

○委員（堀 徹男君） まず、用語のちょっと確認をしたいんですけど、排出事業者責任ということだったんですけど、その事業者っていうのは誰を指してるんですかね。今おっしゃったように処理許可業者さんの事業者なのか。

一般の市民もここに持ち込めますよね。同じ金額を払ってると思うんですけど、事業者と市民は分けて考えるんですか。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 本市では、事業所から排出されます事業系一般廃棄物と御家庭から排出されます一般廃棄物については、もう料金の差は設けておりません。

今回、持込みごみ手数料の改定を行います。持込みごみの約9割が事業所から排出されるごみとなっておりますので、今回は事業所から出るごみを主にターゲットとした料金改定となっております。

○委員長（橋本幸一君） 家庭の持込みの出し方と事業所の持込みのそこを説明せんと分かってもらえんとじゃないのかな。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 主に家庭からのごみといいますのは、有料指定袋で皆さん出される部分が大部分かと思えます。今回、一部御家庭の引っ越しとかですね、片づけ等が出るごみというのもこの持込みごみに該当いたしますので、御自身で持ってこられるごみの料金についても改定がなされるということでございます。

○委員（堀 徹男君） 一般廃棄物処理の許可業者の方もエコエイトに持ち込める。この金額を払えば処理できるっていう考えでいいんですかね。ちょっと確認したいんですけど。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 一般廃棄

物の収集許可業者さんっていうことでよろしかったでしょうか。（委員堀徹男君「うん」と呼ぶ）一般収集許可業者様は契約先の事業所からですね、手数料を頂いて、それをこちらのほうに、エコエイトのほうに納入されるということになりますので、収集許可業者さんから出るごみというわけではなく事業所さんから出るごみを収集許可業者さんが集められてエコエイトに収められるということでございます。

○委員長（橋本幸一君） 分かったですか。

○委員（堀 徹男君） いや、分からない。

○委員長（橋本幸一君） ちょっと小会。

（午前10時23分 小会）

（午前10時29分 本会）

○委員長（橋本幸一君） 本会に戻します。

○委員（堀 徹男君） 事業者責任というのはその業者さんのことであって、一般市民の方も含むということではないですか。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 先ほど、事業者責任の徹底ということでは市民のほうは含まれません。あくまでも市民目線で言いますと、その後述べました受益者負担の適正化ということで、ごみを出す分の費用の負担についてはある程度負担していただくということで、市民の方についてはそちらの受益者負担の適正化のほうに含まれております。

○委員（堀 徹男君） 一旦整理していいですか。

○委員長（橋本幸一君） はい。

○委員（堀 徹男君） 市民の分は受益者負担の適正化。許可業者等が持ってくるやつは排出事業者責任の徹底という2点、2点ですか。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 事業者様につきましては、排出事業者責任の徹底とももちろん受益者負担の適正化も含まれております。

○委員長（橋本幸一君） よろしいですか。

○委員（堀 徹男君） その事業者の越境持込

みですね、増加が懸念されているということだったんですけど、増加が懸念ということは、今から将来にわたって不安ということですよ、懸念ということはね。増加っていうことは、もう既にあってるのがますます増えるということで受け取っていいんですかね。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 越境搬入ごみにつきましては、全てのごみパッカー車の中身を確認するわけではございませんので、実際どれくらいの量があるというようなことは断定できませんが、この越境搬入の懸念というのは、ほかの自治体でも、多くのほとんどの自治体が抱えている課題でございまして、やはり料金格差がありますと、当然想定される事案だと考えております。

○委員（堀 徹男君） でも、何ていうんですか、業者にはルールがあるわけですよ、法的な責任とかですね。それって当然守るべきことじゃないですか。越境搬入駄目だとかっていうのはね。その辺の指導っていうのはどうされてるんですか。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 当然、先ほど申し上げましたように、発生した市町村内で処理するということが原則でございまして、収集許可業者様につきましても、当然、地区を限定したごみ、例えば鏡町であったり、旧八代市であったり、全市であったりといった許可条件がございまして、当然ルールは守っていただくものと考えておりますが、中にはその決まりもですね、ちょっと無視されてですね、ごみを搬入されるケースもあるかと考えております。そこはあくまでも性善説で成り立っている決まりであります。

○委員（堀 徹男君） 性善説で成り立っている。ちょっとよく分からないですけど。ルールを守らない業者のためにですよ、一般市民のたった1割かもしれないですけど、負担が増えるっていうのは、私としてはちょっと納得いかな

いんですけどね。業者の指導が先にあるべきじゃないんですか、徹底して。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 業者につきましてもですね、毎月展開検査ということを行っております、ごみの中身のほうを確認しております。

また、自治体によっては事業系ごみと家庭から出る家庭系の一般廃棄物の料金の格差を設けてある自治体もございますが、中には事業系と家庭系、もしくはですね、事業系ごみなのに家庭系と偽ってごみを搬入するおそれがあるということで料金に差を設けないというような自治体もございます。

本市につきましては、そういった後者のですよね、事業系と家庭系の差を設けない料金体系ということを長年採用しているところでございます。

○委員（堀 徹男君） 確かに料金を同じにすれば、あそこが安いから持っていきこうということにはならなくなるかもしれないでしょうけど、でもそれって規則的には副次的なことですよ。そもそもがいけないことでしょう、越境搬入というのはね。金額同じにしたら、じゃあそれが防げるのかって、そもそも越境搬入の課題は解決できないじゃないですか。そこをどう捉えられます。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 先ほど資料②のほうでお示ししましたとおり、各市町村間で料金の格差はございますので、越境搬入を確実になくすことはできないと考えております。

○委員（堀 徹男君） どうしてもね、納得いかないのは、不適切な業者の、何というのかな、ために僕みたいな実家が出るたんすを持っていきこうとしたらその金額が上がるって、その考え方がちょっと納得いかないんですよ。

○循環社会推進課長（古田和弘君） ごみ処理手数料につきましては、各自治体で手数料の金

額というのは差がございます。あとはその自治体の財政状況によりですね、ごみ袋、有料指定袋を無料化してる自治体もございます。

ただし、今回一般市民の方につきましても、1割の方々については受益者負担の適正化からごみ処理原価、実際は220円相当かかっておりますが、そのうちの150円をお願いすることになりますが、大部分はもう有料指定袋で出される方が大部分でございますので、その方々については、料金のほうも据え置くという形で負担の軽減を図っているところでございます。

○委員長（橋本幸一君） よろしいですか。

この地域外の搬入というのは、これはもう前から、以前からの永遠の課題ということで、やっぱりいかにしっかりしたルール上にとどるかかっていうことは、しっかり行政の皆さんも努力はされてるけど、やはり先ほど言われたこの性善説っていうやっぱりそういう流れの中で、やっぱり漏れがあるというか、そこはもう致し方ないというか、それを100%を適正化するのは大変難しいということで、極力それを100%に近い状況に努力しておられるということとは理解していただければと思っております。

それと、220円の原価とそれから150円の処理料、これについてはまだ100%受益者の負担には行ってないという、やっぱりその部分も勘案してもらえばと思っております。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 先ほどの補足といたしまして、料金改定により越境搬入の抑制というのは第2の目的でございます、第1の目的というのは、料金改定によってごみ処理経費の財源を確保するというのが、ここ数年かなりごみ処理経費もまた増加傾向にございますので、今後のごみ処理事業を安定的に実施していくための財源確保ということが第1の目的でございます。

○委員（山本幸廣君） 古田課長かな、今の最後の言葉はね、それは財源の確保でね、今回の

条例を改正するという、それははっきり言ってから、この改正の趣旨に載っとらんよ、これ財源確保、載せなさいよ、これに。（「ほんとよ」と呼ぶ者あり）さっきから聞いとればたい、いい説明をしとるけども、納得するような、趣旨に納得できるような、我々委員が、納得、堀委員がしとらんけん今質問しよるわけ、質疑しよるわけでしょう。

これ、ずっとその趣旨ば、これ10行ぐらい読んでいったらですね、一般市民はまだ分かんと思う。我々議員が分かんと思一般市民はまだ理解できない。

このね、処理手数料について平成16年からだったでしょう、さっき言ったように。それからずっと上がってないんですよ。上がってない、改定をしてない。その理由についてはいろいろあったわけですよ。まずは、やはり適正なごみの搬出をしてほしいというのがあるし、そういう中でも近隣がこれだけの手数料もらっていると。だから、財源は内側に置いてって、今までは私は思ってたわけ。それはもう上げるってことは財源確保は当たり前だから。近隣がたい、上げよとやけんから。それについて理由は何なのかということ。執行部は説明せな。分かりやすい説明というのは、分かりやすくしよるけれども納得しないという。

一つは、さっき堀委員が言ったように、市民の方々が本当に今搬出をされる中でね、やっぱり事業者の方々がすると、はっきり言って手数料を上げると。市はもうこれだけいろんな、もっと持っていないかんとにまだ上がるとかなというふうな市民の方々がもし問いかけられたら、いやそれは財源確保なんです、これで理解されるかなと思うんですよ。

そこ辺り、ちょっと説明してくださいよ。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 先ほど財源の確保と申し上げまして、そこの説明が記載

されてなかったことにつきましては申し訳ございませんでした。

あともう一つ付け加えることにつきましてはですね、先ほども御説明しましたが、ごみの減量化と再資源化ですね、そちらも目的の重要な一つでございます。実際、展開検査等で中身を検査したところ、資源物になるものというの数多く含まれております。この料金改定により、さらなる資源化、ごみの減量化につながることを期待しているところでございます。

○委員（山本幸廣君） 対策検討委員会のメンバーはどういうメンバーなのか、ちょっと教えてください。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 八代商工会議所の方や八代漁業協同組合、また八代地域協議会連絡会議、八代青年会議所の方々、また専門の先生の方としては熊本高等専門学校の先生方を委員に選んでるところでございます。

○委員（山本幸廣君） 地域婦人会やないけど、市民の代表は誰ね。今のメンバーの発表の中で。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 市政協力員の会長さん。あとはですね、環境系でいきますと次世代のためにがんばる会という団体がございまして、そちらの代表の方とかですね、あと婦人会の会長さんも委員になっていらっしゃいます。

○委員（山本幸廣君） ちょっとメンバー表、後から資料提出してください。

○委員長（橋本幸一君） ただいま資料提出の要望がございましたが、いかがいたしましょうか。（「見たいですね」と呼ぶ者あり）請求。（「はい」と呼ぶ者あり）

請求するに賛成の方の。

（賛成者 挙手）

○委員長（橋本幸一君） それでは、全員資料請求賛成でございますので、後ほどよろしいですか。

○委員（山本幸廣君） もちろんよかです。

○委員長（橋本幸一君） 後で資料もらいます、お願いします。

○委員（山本幸廣君） 今もらえばよかですけども、古田課長かな、課長、今の説明はね、私が今質疑をした中で、メンバーを正式にきちんとね、やっぱり氏名を出して、団体、組織についてはまずそこで説明をする。そういう流れをつくってください。

先ほど、私は自分なりにはこの中には地域婦人会かな、市政協力員かなと思いながら質疑しとったんですけども、それがなかったものから、またそれを質疑せないかんということですからね、よろしくお願ひしときます。

○委員長（橋本幸一君） ただいま財源確保って言われたんですけど、確かにこの財源確保である場合はちょっと誤解を招くこともあると思いますので、処理するに必要な経費が220円であるということで、その差額があるため非常に経費が受益者負担というその原則から外れるという、そういうニュアンスで伝えられたほうがいいんじゃないかなという思いがします。

○委員（山本幸廣君） 委員長が言われたことと丸反対になるんですけども、越境関係とかいろいろ関係でね、手数料を改定せないかんというのは、近隣の市町村がそのような手数料で設定をしようということ、本市だけはそのような状況があるということですね、市民の理解を得るようなその趣旨を私は説明していただければいいんじゃないかと思ひますけどね。

ただいま委員長が言ったようなことも大事かもしれないんですけども、なるだけならば近隣に合わせたって、近隣に合わせなきゃいけないと、越境関係が多くなって増加しているからと、そういうような理由が一番市民は納得するというような気がしますがね。

○委員長（橋本幸一君） 堀委員、よろしいですか。

○委員（堀 徹男君） はい。それも質問事項に上げとったんですけど、ごみ処理経費との乖離というふうにありましたよね。そのごみ処理経費とは、改定額の根拠とされているということでね、ごみ処理経費は幾らかかっているのって聞こうと思ったんですけど、それ220円ってことなんですか。キロとかトンとか。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 約10キロ当たり220円というふうに計算上なっております。

○委員（堀 徹男君） じゃあ、ちょっと視点を変えるんですけど、持込みごみはね、当然事業者、一般廃棄物とか何とかって事業者さんもあるんでしょうけど、私たち一般市民も持っていくわけですよ。資源回収の立会人も私してるんですけど、そこにね、持って来れない方々がエコエイトに今から持っていくとたいって、ペットボトルとか空き缶とかね。でもね、資源を持っていったらね、逆に金取らるってよって。リサイクルリサイクルって言うけん、ガソリン代使ってエコエイトまで持って行って、アルミ缶だ新聞だ何だって下ろしてね、金取らるってたいって。

それって逆じゃないとって。何ていうの、何だっけ、再利用の推進とかね、減量化の推進って言うてるのに。逆の視点で言えば、じゃあ持ってきてくれた人は無料で引き取るぐらいのことがあっていいんじゃないのって意見もあるんですよ。持ってきたのに、市の理想に近づけるようにやってるのに金取られるっていうね。資源回収に出せば無料ですけどって。その辺どう思われます。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 確かに堀委員おっしゃったように、持ってこられるとお金がかかるということは不公平感が出てるとは感じておりますが、どうしても施設の構造上、今1つしか重さを量る計量器がございません。ですので、今、実際資源物と可燃物を分けてつ

くってある施設については、そういった形で資源は無料という自治体も確かにございます。ただし、エコイトにつきましては、今同じ施設内にございますので、物理的に資源物だけを量を減らすということがちょっとできない状況となっております。

ですので、できるだけ資源の日を御利用いただいでですね、経費負担のほうを削減していただければと考えております。

○委員（堀 徹男君） 資源の回収場で受け取れない品物ってあるんですよね。60センチ以内とかね、これは受け取れません、直接持ち込んでくださいって書いてるやつがある。でも、それですらやっぱり持っていくとお金取られるっていうね、ガソリン代使ってるのに。

そんな方々、市民の何ていうの、声もあるのに、逆に持っていけば余計金が上がるっていうのはね、ちょっとその人たちに何て説明すればいいのかなと思うんですけど、どうやって説明されるんですか、それ。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 確かに、資源の日で出せない粗大ごみにつきましては、うちのほうに持ってきていただいて、処理手数料を頂くんですが、実際それを処理する際に当然ごみ処理経費というのが、経費のほうがかかっておりますので、その経費の一部をお願いするという事で御説明したいと考えております。

○委員（堀 徹男君） ベッドマットとかね、スプリングの入ってるやつ持っていったときに、現場の方がカッターでね、切られて、スプリングが入ってるか入ってないかチェックされる。入っていると、ああ、スプリング入ってますからあと1000円追加でお願いしますって言われる。いや、それはもう当然ね、もう規約に書いてあることだし、1000円で処理していただけるならありがたいなと思って持ってきますよ。

しかし、現場の人の声聞くとね、スプリングが入ってますからあと1000円って言ったなら持って帰るって行ってね、もうちょっと怒って、現場の人に怒って帰る人もいるっていうね、レベルもあるって聞くんですよね。そんな、じゃあ現場の人もまたかわいそうだなと思うんですよね。その現場でやられてる方。スプリングマットレスが1個2000円になれば、プラス1000円でしょう。3000円になるんじゃないかな、これ。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 確かにスプリング入りマットレスにつきましては、別途手数料のほう、現段階で1000円頂いております。ただし、今、実際処理をお願いしておりますのは、八代市障害者福祉事業所様のほうに処理の委託をしております、そちらで一生懸命作業をしていただいていると。その部分のやはり報酬といいますか、委託料については適正に負担すべきであるということで、その分につきましては、申し訳ございませんが、市民の負担ということでお願いしたいと考えております。（委員堀徹男君「分かった」と呼ぶ）

○委員長（橋本幸一君） ほかに。

○委員（山本幸廣君） 角度をちょっと変えてからですけどもね、改正の内容の中に八代ソイルっていうのが重量10キロ当たり50円を100円という変更をされるんですよね。市が運営しとるその暫定のあれですけども、基準がありますよね、規定というかね。そういう中で、あそこに持っていったところできなかったということで、別なところに持っていかれるというのが多いんですけども、この八代ソイルはこの3年間ぐらいで増加してる、量は。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 年間処理量につきまして御説明します。

令和3年度が590トン、令和4年度が597トン、令和5年度が602トンと増加傾向にはございます。参考までに、令和2年度は54

8トンでございますので、4年間で約54トン、1割程度増加しております。

○委員（山本幸廣君） 先ほど来課長が言ったように、増加するから改定をする、使用料を上げるという趣旨に私はもうそれは理解したいと思うんですけども、ほとんどですね、家庭内でお盆や正月に樹木の剪定をされて、それをですね、切断をして60センチか何センチか分かりませんが、そういう切断をしてから八代ソイルに持って行って、そこへ持っていったところが取られなかったという方がたくさんおられるんですよ。

そういう中で、ほとんどあとは外港あたりの有料の業者がおるんじゃないかな。そこら辺りに持っていかれるといったところが物すごく安かったと。そこが逆に安かったという、安くしていただいたとか何かそういう話もあるんですけども。

要は、八代ソイルのところに持込み規定というのをですね、もうちょっと緩やかにしたならばまた増えるんじゃないかと思うんですよ。その点はどうか。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 受入れ基準につきましては、やはり機械の能力というのがございますので、どうしても機械が港町にある大手民間企業とはちょっと規模が小さいもので、なかなかそういった直径が大きいものとかいうのは裁断ができないというところがございますので、なかなか基準の見直しというのは難しいところと考えております。

○委員（山本幸廣君） 基準が見直せば、機械ば購入すればよかった、補助金で。そこ辺りはどうね。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 申し訳ございません、補助金の有無につきましては、ここでちょっと資料等がございませんので、できるかどうか早急にお答えできませんが、やはり機械のほうも老朽化しておりますので、毎年機

械の更新については財政課のほうに要求してるところでございます。

○委員（山本幸廣君） いい質問だったと思うよね。市民の方々に対すれば。私も見てから、もう当初からあのクラスかなと思いつつ、それがずっと、はっきり言ってから設備の投資をしてないんですよ。

古田課長、あなたの今の検討してるという、そういうふうな感銘しましたね。はい、ありがとうございます。一生懸命頑張ってください。

○委員（堀 徹男君） さっきからね、いっぱい質問してるんですけど、僕らもね、市民に対して説明責任があるんですよ。料金改定っていうことは値上げ、市民の負担は増えるわけですよ。そこと行政の、何だ、処理費とかね、経費がちゃんと折り合いがつくのかっていう話をね、せないかんわけ、僕らはね、今。

説明をもう少し丁寧にしてほしかったなっていうのは、さっきのね、処理経費っていうのはね、やっぱりあるじゃないですか。それ、今回の改定が平成16年からされてないということで20年間やってないわけですよ。今までのその経過があるわけなんですよ、合併前で終わってるわけですからね。

どうしてその20年間、今までの、この間にその経費でね、頑張ってきたのか、どうして今回それを上げるのかというのをね、そこからやっぱり丁寧に説明していかなくちゃいけなかったと思う。ということで、御感想をいただいでいいですか。

○委員長（橋本幸一君） 感想と言いますと。

○循環社会推進課長（古田和弘君） 確かにごみ料金につきましては20年間改定しておりませんでした。このごみ処理手数料というのは、公共料金に近い部分、要素があるかと思っておりますので、本来であればその都度ごみ処理手数料原価とですね、原価を埋めるような定期的な料金改定というのが必要だったかと思いますが、今

回ちょっと大幅に50円という、率で言いますと50%アップという急激な料金高騰ですね、料金値上げに踏み切った次第で、そこは申し訳なかったと考えておりますが、今後につきましては、きちっとですね、処理手数料のほうとの比較を検討、検証しながらですね、必要性について検討していければと考えております。

○委員長（橋本幸一君） ほかに。

○委員（堀 徹男君） さっきのごみ対策検討委員会の中にですね、やっぱり消費者目線で意見が出せる方というのは入ってらっしゃったんですかね。また、その方々も何回か会議を重ねられたと思うんですけど、その会議の過程の中でね、一番身近な消費者の方々が納得いくような合意に至ったのかなというのがあるんですよ。

○循環社会推進課長（古田和弘君） ごみ処理対策、先ほどの検討会ですが、その中で大きくごみ袋とこの持込みごみ処理手数料の検討をされました。

ごみ袋につきましては、実際料金もここ数年、2倍程度値上がりしているところでございますが、やはり県内他市と比較いたしまして、料金について高い部類にありますので、また市民生活に直結するものでございますので、料金の据置きが望ましいという意見をいただいたところでございます。

ただし、持込みごみの手数料につきましては、近隣との価格差が拡大している傾向にありますことから、越境搬入の抑制も含めてですね、見直しをすべき時期に来ているということで提言のほうをいただいているところでございます。（委員堀徹男君「はい、分かりました」と呼ぶ）

○委員長（橋本幸一君） よろしいですか。

ほかに。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（橋本幸一君） なければ、以上で質

疑を終了します。

意見がありましたらお願いします。

○委員（山本幸廣君） 2点ですけども、最後のね、課長の言葉で冒頭にそのような説明をしとけばね、趣旨の中で、これは本当にはっきり言って行政用語が並んで、あるんですけども、今最後の言葉というのはいよいよ大事な言葉でね。

それと、ソイルについての設備投資の中で検討しておられるということで、ぜひともですね、八代市が今ハードな事業が大変多いんですよ。やっぱりソフトな事業の中でね、市民目線の中で考えたならば、市民の方々が今求めておられることも含めて、この検討委員会で検討されたのが古田課長のさっきの最後の説明の中でですけども、ぜひともですね、市民の方々に小さいことからですね、私たちは、行政としてはしていただきたい。特にソイルについてはですね、物すごく最近多いんですよ。ですから、ぜひとも早急な国の補助事業を探し出して、そして検討していただきたいというふうに思います。

意見です。

○委員（堀 徹男君） るる質問をさせていただいたんですけど、なぜ質問するかという趣旨についてはですね、先ほど言ったように御理解をいただきたいと思います。

もう一点がですね、事業者の越境搬入だったかね、性善説に基づいてやるのはいいんですけど、やっぱりね、これ法律にのっとった行為ですから、そこはね、少し強めでもいいからやらなきゃいけないと思う。事業者に対してもね、指導は。だってすごい罰金でしょう、産廃持込み。入り口に書いてあるじゃないですか、何百万円、1000万円とか。あれ一般人の僕らが持っていったとき、見ただけでどきどきするんですよ。それをやっぱり事業者にもしっかりね、指導してください。

以上です。

○委員長（橋本幸一君） ほかに。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（橋本幸一君） なければ、これより採決いたします。

議案第59号・八代市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例の一部改正については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（橋本幸一君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

執行部は御退室ください。

執行部より発言の申出がっておりますので、これを許します。

○住宅課長補佐兼市営住宅係長（村上修一君）

住宅課村上でございます。

先ほど堀委員さんの御質問に対しまして、起債の借上げ額を1万円単位と申しましたけども、正しくは10万円単位でございました。訂正のほうをお願いいたします。

○委員長（橋本幸一君） 以上で付託されました案件の審査は全部終了いたしました。

お諮りいたします。

委員会報告書及び委員長報告の作成については、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（橋本幸一君） 御異議なしと認め、そのように決しました。

◎所管事務調査

- ・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査
- ・生活環境に関する諸問題の調査

○委員長（橋本幸一君） 次に、当委員会の所管事務調査2件を一括議題とし、調査を進めます。

当委員会の所管事務調査について何かありませんか。

○委員（山本幸廣君） 市民からの声ももうた

くさん来てるんですよ。といいますのは、火葬場の、斎場の件なんですけど、環境のうちが担当委員会になりますので、この場所でやるということはありませぬけどもですね、今の環境的な、施設もですけども、いろんな問題がありますので、後から。

○委員長（橋本幸一君） 管内視察ですか。

○委員（山本幸廣君） うん、管内視察。お願いしたいと思います。

○委員長（橋本幸一君） 管外じゃなくて。

○委員（山本幸廣君） 管内です。

○委員長（橋本幸一君） 管内でよかですね。

○委員（山本幸廣君） よろしくお願ひします。

○委員長（橋本幸一君） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（橋本幸一君） 以上で所管事務調査2件についての調査を終了いたします。

次に、閉会中の継続審査及び調査の件についてお諮りいたします。

当委員会の所管事務調査2件については、なお調査を要すると思いますので、引き続き閉会中の継続調査の申出をいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（橋本幸一君） 御異議なしと認め、そのように決しました。

最後に、本委員会の管外行政視察について協議のため、小会いたします。

（午前11時01分 小会）

（午前11時02分 本会）

○委員長（橋本幸一君） 本会に戻します。

当委員会の管外行政視察につきましては、10月下旬に行いたいと思いますので、調査事項につきましては、今定例会終了までに書記まで御連絡いただければと思います。よろしくお願

いします。

以上で本日の委員会の日程は全部終了いたしました。

これをもって建設環境委員会を散会いたします。

(午前11時02分 閉会)

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

令和6年6月12日

建設環境委員会

委員長